航空ファン

THE KOKU-FAN

★ 20

ワイドカラー

WIDE COLOUR

愛知D3A

99艦爆



特集

米大陸の空軍と海兵隊航空基地めぐり

新艦上戦闘機グラマンF-14を解剖する

ロータリーエンジン用　RC機"マン"

'72 7 JULY

$2.30



本誌特写・アメリカの航空基地

スイモアジョンソン空軍基地のファントムII

ノースカロライナ州のスイモ[illegible]空軍基地に配備 [illegible] Eファントム[illegible] 第4戦術戦闘航空団（4[illegible]W）第33 戦術戦闘飛行隊（335[illegible]T[illegible]）の所属機 主翼下 高速度ターゲット曳航を吊りT[illegible]る



シイモア・ジョンソン空軍基地のエプロン　タワーよりの展望　左側に第335戦術戦闘飛行隊、その右側には第336戦術戦闘飛行隊（336 TFS）のF-4Eが整列している





スイモアジョンソン空軍基地は，陸軍航空隊の戦闘や爆撃機要員の訓練基地として大戦中の1942年6月に開かれた伝統のある航空基地。1956年，空軍基地として再開され，現在駐留している主力部隊は第4戦術戦闘連隊，その三つの飛行隊，第334，335，336戦術戦闘飛行隊がF-4Eを持って配備されている。

〔上〕第335戦術戦闘飛行隊"チーフス"の1機で，胴体にその部隊マーク（下）第336戦術戦闘飛行隊"ロケッターズ"所属機



チェリーポイント海兵航空基地のファ



ノースカロライナ州にある海兵隊の航空基地チェリーポイントMCASのF-4B。海兵隊第312戦闘攻撃飛行隊（VMFA-312）の所属機である



チェリーポイントは海兵隊で最大の航空基地。海兵隊の三つの航空団のうちの一つ第2海兵航空団(2nd MAW)が司令部を置いており、傘下の戦闘機と攻撃機の実用訓練部隊、第20戦闘攻撃訓練大隊(MCCRTG 20)の第4航空大隊(MAG 4)、それに実戦部隊の第312戦闘攻撃飛行隊などのF-4、A-4、A-6が訓練にはげんでいる。





左ページ上：実用訓練部隊MCCRTG 20に所属する第201戦闘攻撃訓練飛行隊（VMFAT 201）のF-4J。テイルコードはKD。同飛行隊はF-4Sも装備している
のページ：同基地駐留の実戦部隊である第312戦闘攻撃飛行隊のF-4J。同飛行隊は空母コーラル・シーに派遣されている



上

スイモアジョンソン空軍基地のB-52G





スイモアジョンソン空軍基地には第4戦術戦闘航空団のほか、第68戦略(重)爆撃航空団もB-52Gと給油機のKC-135を持って駐留している。同航空団は1963年4月にシェンノート空軍基地（ルイジアナ州）で解隊された第68(中)爆撃航空団の名称をひきついだもので、実質的にはこのスイモアジョンソンで1958年に編成した第4241戦略航空団がその前身。現在2整備を含めて5個飛行隊を麾下にしている。

前ページとこのページはその主力飛行隊、第51爆撃飛行隊のB-52G。前ページ尾翼が見えるのはKC-135で、これは第911空中給油飛行隊の所属である。





フロリダ州のマクデル空軍基地（McDill AFB）で撮影したB-570。第1戦術戦闘航空団（1st TFW）第4424戦闘乗員訓練飛行隊（4424th CCTS）の所属機。明るい陽光 きれいな雲。南部フロリダの基地では、迷彩の翼たちもひときわ栄えて見える（Photo by Mr. K. W. Buchanan）



同じくフロリダ州のマッコイ空軍基地（McCoy AFB）に降りたDC-130E。アリゾナ州のデビスモンサン空軍基地（Davis Monthan AFB）を本拠とする第11戦略偵察連隊（100th SRW）の所属機でマッコイに派遣されている1機。主翼下に吊しているのはライアンAQM-34系無人偵察機。（Photo by Mr. K. W. Buchanan）



マッコイ空軍基地のB-52G フェアチャイルド空軍基地（Fairchild AFB）から飛来した第92戦略宇宙航空団第92爆撃飛行隊 アベンジャー・ハンター の1機 右側の機体の尾翼に書かれているのは第2空軍のシンボルマークである（Photo by Mr. A. W. Bu[illegible]）



Revell
PT BOAT ★ GUN BOAT ★ SUBMARINE
電撃作戦指令
新発売
レベル新艦船シリーズ
1/144 SCALE
MINIACE
新発売 / 一各 ¥50
① 中島 97式艦上攻撃機
NAKAJIMA 97KANKO
② 愛知 99式艦上爆撃機
AICHI 99KAMBAKU
③ 空技廠 艦上爆撃機 彗星
KUGISHO SUISEI
④ 川西 局地戦闘機 紫電
KAWANISHI SHIDEN
⑤ 中島 1式戦闘機 隼
NAKAJIMA HAYABUSA
⑥ 中島 2式戦闘機 鍾馗
NAKAJIMA SHOKI
⑦ 川崎 3式戦闘機 飛燕
KAWASAKI HIEN
⑧ 中島 4式戦闘機 疾風
NAKAJIMA HAYATE
⑨ 三菱 零式艦上戦闘機 21型
MITSUBISHI ZERO SEN TYPE 2
⑩ 三菱 局地戦闘機 雷電
MITSUBISHI RAIDEN
⑪ 川西 局地戦闘機 紫電改
KAWANISHI SHIDEN KAI
⑫ 中島 艦上偵察機 彩雲
NAKAJIMA SAIUN



アメリカ[illegible]イ[illegible]パトロールの装備機[illegible]森や草原の人[illegible]そなえて待機されて[illegible]る国家の[illegible]ル続て[illegible]その外見[illegible]の。[illegible]の機体[illegible]装備されて活躍し[illegible]る




55


60
64
N1366N




17

1 2 KI 45 KA KO OF 2ND KOGEKI KOKUTAI(ATTACK SQDN) 4TH SENTAI (FIGHTER GROUP)
3 KI 45KAI HEI OF 13TH SENTAI
4 KI 45KAI OTSU OF 2ND CHUTAI 5TH SENTAI



1と2 キ45改甲 飛行第4戦隊第2攻撃隊所属機
③ キ45改丙 飛行第13戦隊所属機
④ キ45改乙 飛行第5戦隊第2中隊所属機

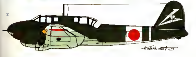
2



3



4



川崎 キ45改 "屠龍"

KAWASAKI KI 45-KAI "TORYU"

第２次大戦の前半は主として南方各地で使用され、大戦末期には陸軍唯一の夜間戦闘機としてＢ-29の迎撃等に活躍、本土防空に活躍した名機である。キ45改は各種の改造型もあった。甲型は機首に12.7mm×2、胴体下に20mm×1の武装、乙型は機首を少し延長して機首の武装を20mm×1、胴体下に37mm×1とした。丙型は37mmまたは20mmの斜銃２門をつけた型で、胴体下の37mm砲は取りはずしてある。機体は約1,700機が生産されている。

☆キット紹介☆

今まで求められる「屠龍」のキットが発売されていなかったが、レベルの1/72シリーズ、待望のキ45改乙丙のキットが追加新発売された。レベルの1/32シリーズと同じように凹加工のリベットや不整張り彫刻をもつシャープなキットで、エンジンを内蔵、機首を切断して交換すると乙型も作れ、ドルできる20mm砲を機首に内蔵、斜銃部もコンバーチブルパーツで斜銃なしの機体を作ることもできると言う凝りようである。

☆塗装について☆

図１と２は甲型で飛行第４戦隊第２中隊の所属機、機体は全面が明灰白色（２）、16「濃緑色」で機体の上、側面に図のような濃緑色の迷彩があり、日の丸は本土防空を示す白帯つきでスピナーは茶褐色。

図３ 丙型前期で飛行第53戦隊所属機。機体は全面明灰白色（２）で機体の上側面が濃緑色（16）の「まだら」迷彩のある機体。

図４ 乙型で飛行第５戦隊の所属機。機体の上、側面はオリーブドラブのような濃緑色（65）を使用、下面は明灰白色（56）の塗装。日の丸は全部白帯つきとなっている。

（K.Hashimoto）

K 45Kaiデータ〔technical data〕

全幅（span）15.02m 全長（length）11.00m 全高（height）3.70m 全備重量（max weight）5,500kg 発動機（engine）ハ102（Ha-102 1,080HP）×2

最大速度〔max speed〕547km/h 実用上昇限度（service ceiling）10,000m 航続距離（range）2,000km 乗員（crew）2

The well-known Kawasaki TORYU was the sole night fighter of the Japanese Imperial Army during the latter period of WWII and was active in intercepting B-29s to air defend the Japanese mainland. During the first half of WWII this aircraft was used mainly in the southern theater. The Ki 45 Kai was produced in various models: the model Ko was equipped with two 12.7mm guns in the nose and one 20mm gun beneath the fuselage; the model Otsu's nose was a little longer than the model Ko and was equipped with one 20mm gun in the nose and one 37mm gun beneath the fuselage; the model Hei was equipped with two 13mm or 20mm guns in the nose and one 37mm gun beneath the fuselage. Some of the model Hei aircraft were built without the gun beneath the fuselage. A total of nearly 1,700 Ki 45 Kai aircraft were produced.

KIT

Revell's Ki 45 Kai Otsu-Hei kit currently placed on sale in the 1/72 series is the kit model fans have long waited for. It is vastly superior to TORYU kits which appeared in the past. This is a convertible type and model fans can make both the model Otsu and model Hei by changing the nose part. The gun in the nose is 20mm. The movable gun parts are also convertible and the kit fans can build the plane without them if desired. Like Revell's 1/32 kit, this is finished with sunken rivets, detailed and sharp engraving, not to mention its elaborate engine.

PAINTING

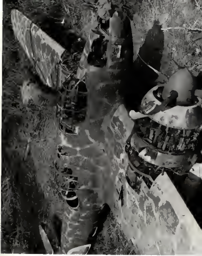
Figs 1 & 2: This is the model Ko TORYU belonging to No. 4 Sentai (Air corps) 2nd Chutai. The fuselage is painted Revell Color (RC) 56 bright gray white with an RC 16 dark green camouflage on the top and sides of the fuselage. The Hinomaru flag is encircled with a white belt, showing that this is for the air defense of the mainland. The spinner is red brown.

Fig 3: This is the model Hei TORYU belonging to No. 53 Sentai. The top and sides of the fuselage are RC 56 bright gray white with a spot camouflage of RC 16 dark green.

Fig 4: This is the model Otsu belonging to No. 5 Sentai. The top and sides of the fuselage are painted a color close to olive drab which can be approximated by applying RC 65 dark green, while the bottom is RC 56 bright gray white. Hinomaru flag marks are all with white belts.

(K. Hashimoto)

屠龍の塗装に必要なレベル カラー	
1ホワイト	3レッド
8シルバー	16濃緑色
20黄緑色	4レッドブラウン
35黄褐色	56明灰白色（2）
37黄竹色	65カーキ



川崎キ45改 2式複座戦闘機"屠龍" 南方基地で米海兵隊に捕えられた"屠龍" 機体の塗装は 明灰白色の地色に 上側面のみ暗緑色の不規則な斑点（スプレイしたもの）である 主翼前縁は 味方識別のため 橙黄色に塗られている 胴体の日の丸は白ふちつき？ 主翼のものは 日の丸の周囲だけ暗緑色のスプレイを避けているのに注意 (Marine Corps Photo)



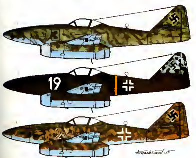
川崎2式複座戦闘機（キ45改）"屠龍"

南方の基地でアメリカ軍にろ獲された2式複戦"屠龍"その他の陸軍機。手前に尾翼に「宮」の文字と32の数字を描いたグリーン塗装の"屠龍"、そのとなりは4式戦"疾風"（尾翼に"さ"の黄文字）で、さらにその後方に迷彩の"屠龍"が映っている。当時の日本機の貴重なカラー写真の1枚である

1 A PAINTING PATTERN
2 Me262A 1a BELIEVED OPERATED BY KOMMANDO NOWOTNY
3 Me262A 1a OF ERPROBUNGS KOMMANDO 262
4 Me262A 1a U3 OF EINSATZ KOMMANDO BRAUNEGG

1 平面塗装例
2 Me262A-1a ノボトニー 特別隊所属機
3 Me262A-1a 262実験部隊所属機
4 Me262A-1a U3 アインザッツ部隊所属機





メッサーシュミット　Me262

MESSERSCHMITT ME262

第二次大戦末期の実用ジェット戦闘機で、総生産数は1433機といわれ、本格的な実戦にも活躍したといわれる。A、B、Cなどの各型が生産され、その外種々の試作型もある。戦闘機型の名称はシュワルベ、爆撃機型はシュトルムフォーゲルと呼ばれた。

キット紹介

レベルの1/72ファイターシリーズのうちで最も大きなキットに属するもので、このMe262Aのキットでは部品数はスタンドを含め38個あり、可動部は前脚と車輪となっている。シャープでガッチリした仕上りは秀作で定評、特徴をよく表現しているキットのひとつである。

塗装について

図1は予定塗装例で、胴体の背と翼上面はダークグリーンとブラックグリーンのスプリンタータイプ迷彩、下面はライトブルーRC30、胴体の側面はRLMグレーでダークグリーンのまだら迷彩がある。

図2　胴体の背はダークグリーン、翼上面はダークグリーンとブラックグリーンのスプリンター迷彩、下面はライトブルーRC30でエンジンの前部はシルバー。胴体側面はRLMグレーでダークグリーンのメロメロ迷彩がある。機首のナンバーはグレーでダークグリーンのふちつき。

図3　機体の上・側面はダークグリーン、スプリンタータイプに近いブラックグリーンの迷彩があり迷彩の境界はぼかしになっている。下面はライトブルー、垂直尾翼上部はライトブルーでブラックグリーンのまんだらがある。

図4　機体の上・側面がサンディブラウン地でダークグリーンのメロメロ迷彩があり、下面はライトブルー、翼上面も胴体と同じ迷彩と推定される。

(K. Hashimoto)

Me262Aデータ (technical data)

全幅 (span) 12.48m　全長 (length) 10.6m　全高 (height) 3.84m　全重量 (gross weight) 6,400kg
発動機 (engine) ユンカース・ユモ (Junkers Jumo) 004B 3(900kg)×2　最大速度 (max speed) 870km/h
実用上昇限度 (service ceiling) 11,400m　航続距離 (range) 1,050km　武装 (armament) 30mm MK-108×4 R4M-AAM×24　乗員 (crew) 1。

The Me 262 became famous as the first jet aircraft placed into operational use in the world. It is said that a total of nearly 1433 planes were placed, but the war came to an end before they were used extensively in real combat. Models produced included the A, B, C and those of test manufacturing aircraft. The fighter model was called the "Schwalbe" and the bomber model the "Sturmvogel".

KIT

The Me 262 kit is one of the largest kits in the Revell 1/72 series. It is composed of about 38 parts including the stand. Although the movable parts include front gear and wheels, the finish is sharp and steady. It is known to be one of the Revell masterpieces skillfully expressing the features of the Messerschmitt Me 262.

PAINTING

Fig.1 The top of the fuselage and upper surfaces of the wings are splinter camouflaged with dark green and black green. The lower surfaces of the wings are Revell Color (RC) 30 light blue, while the fuselage sides are RLM gray with a spot camouflage of dark green.

Fig.2 The top of the fuselage is RC 17 dark green. The upper surfaces of the wings are splinter camouflaged with RC 17 dark green and RC 18 black green, while the lower surfaces are RC 30 light blue. The front of the engine pod is RC 18 silver. The sides of the fuselage are RLM gray with a flame camouflage of dark green. The numbers on the nose are RC [illegible] gray bordered in dark green.

Fig.3 The top and sides of the fuselage are dark green under a camouflage of black green. The camouflage is close to a splinter type but the color border are shaded. The lower surfaces are light blue and the upper part of the tail is light blue with black green dots.

Fig.4 The top and sides of the fuselage are RC 1? sandy brown, with a flame camouflage of RC 17 dark green. The lower surfaces of the wings are light blue while the upper surfaces of the wings are supposed to have a camouflage similar to that of the fuselage.

(K. Hashimoto)

Me262の塗装に必要なレベル・カラー

①ホワイト	④イエロー
⑤ブルー	⑧レッド
⑰ダークグリーン	⑱ブラックグリーン
㉚ライトブルー	㊴サンディブラウン
㊶グレー75	㉝黒つや消し
㊱フラットベース	⑫シルバー



メッサーシュミットMe262A-1a戦闘機　第7戦闘大隊"ノボトニー"部隊第3中隊（III/JG7）所属の1機で、ステンダル飛行場近くで米軍に捕えられ [illegible] 最初のMe262　機体の塗装は　上面濃ダークグリーン/ライトブラックグリーンの迷彩　下面ライトブルーと思われる　操縦席の前方に　有名なJG7"ノボトニー"の"ファングウォルフ"のエンブレムをつけている　W No は 12385

メッサーシュミットMe262B-1a



ヨーロッパでアメリカ軍の手におちた夜間戦闘機のMe262B-1a。最新のFuG 218レーダーを装備しており、米軍では飛行テストをやって、同レーダーの性能などもテストしている。FE 610"は外国機を示す米軍の航空技術情報機関（TAIC）の記号。同機は現在、ウィローグローブ海軍基地に展示されている。

ベアを追尾するファントム



ナマ洋上に姿を見せたソ連の長距離爆撃機Tu-95ベアを追尾するアメリカ海軍のF-4BファントムII 4Bはミッドウェイ(CVA-41)から発進したもので、昨年7月5日の撮影（DIP×U.S.Navy）



空中給油母機に改造されたビクター

イギリス空軍のホーカー・シドレー ビクター爆撃機を空中給油母機に改造、そのテストがウッドフォード飛行場で行なわれている。写真の機体はその1機で、給油プローブをのばして飛行中。マンチェスターのホーカー・シドレー工場では、24機のビクターが給油母機に改造されている。



勢ぞろいしたフランスの新型軍用機

ノ[illegible]ーズ飛行場のエプロンに勢ぞろいしたフランスの新型軍用機。手前からミラージュ[illegible]の試作機、ミラージュF1戦闘爆撃機、ジャガーE攻撃練習機、ミラージュIII戦闘機、ミラージュIVA戦略爆撃機の各機。国際共同開発のジャガーをのぞいて、ほかはマルセルダッソー・ブレゲーのミラージュ一族である



ヒューマとシャイアン　ヘリコプタ

（上）フランスの誇るエアロスパシアルSA330ピューマ　ヘリコプタの中型多用途 [illegible] スの陸軍でも採用されている傑作機　引込脚の車輪や胴体ラトナより大きな切欠きがよく見える
（下）リジットローターの高速攻撃ヘリ　ロッキードAH 56Aシャイアン　米軍のユマ実験場でのテストを終了　ターゲットの軍保留地で6週間にわたる陸軍の実戦性能評価テストに入ることとなった　写真はテスト場に向う [illegible]





朝鮮戦争のF4Uコルセア

38度線近くの飛行場で作戦中のF4U-4コルセア 第1海兵航空団（1st MAW）のコルセアたちで 機首カウリングにチェッカー（赤と白）をつけ 尾翼に「WR」の記号を書いたのは海兵隊第312戦闘中隊（VMF-312） 上の写真 機首が見えるのは海兵隊第214戦闘中隊（VMF-214）の所属機（テイル・レターは「WE」）である 主翼下にロケット弾を装備して いまにも発進するところ。下の写真では 翼中に対空機関砲陣地 全機がいっせいにペラをまわして出撃準備完了 あわただしい仮設飛行場のふんい気がうかがわれる。（Marine Corps Photo）





明野陸軍飛行学校の2式単戦“鍾馗”

Nakajima Ki-44 Type 2 Single-seat Fighter "SHOKI"s of Akeno Army Flying school

昭和18年の春頃、三重県明野の陸軍飛行学校で訓練中の2式単座戦闘機「鍾馗」。写真上は、滑走路に向ってマダラ迷彩と無塗装の「鍾馗」2型甲。精かんな本機の特徴がよくつかめるスナップである。開かれている独特の蝶型空戦フラップがよくわかる。写真下も、準備が完了して順次スタートラインに向う明野飛行学校の「鍾馗」。手前の無塗装機の向う側のマダラ迷彩機は、後期の1型である。





[illegible]ンと称し[illegible]式[illegible]着艦[illegible]プロペラをまわして 発艦の順をつぎつぎ スタート 離艦[illegible]
[illegible]離着陸[illegible]視界の不良があげられているが[illegible]してみると すんぐりとして 機首はやはりかなりの大きさ
である 手前の機体[illegible]２五型 全機の航跡 機翼部の[illegible]照準器などが[illegible]よ[illegible]２脚乙の[illegible]の照準器は[illegible]
[illegible]

本誌特写



スイモアジョンソンチェリーポイント航空基地を見る



[上]発進準備中のF-4E 両翼と胴体下には増槽それにロケット弾搭載用の訓練用ランチャーを付けている



〔上・下および右ページ上〕第336戦術戦闘飛行隊の（336th TFS）のF-4E 同飛行隊のニックネームは「ロケッターズ」尾翼部分にそのマークをつけている 飛行中の機体で夜間識別灯をつけているのとつけていないのがあるのに注意







(上 下)スイモアジョンソン基地に駐留している戦術航空軍団所属 戦術戦闘（置） 爆撃迎撃の B-52Gストラトフォートレス 第51爆撃飛行隊の所属機で 上はタッチアンドゴー訓練中のもの 機体下面の爆弾倉がよくわかる











スイモア・ジョンソン空軍基地には第4戦術戦闘航空団のほか 戦略航空軍団（SAC）の第 重 爆撃飛行隊も駐留して 緊急事態 そなえて目を て る「上 下」上その第51爆撃飛行隊のB 52G 上の写真で フラップの可動状態 降着装置などがよくわかる 下の写真は尾部銃座のクローズアップ



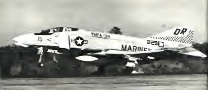
（下）同じく第68 重 爆撃飛行隊第911空中給油飛行隊のKC 135 B 52GはAGM 28 ハウンド ドッグやADM 20C クウェイルの目標などを積んでおり KC 135とともにつねに警戒待機させている





着陸するF-4B　海兵隊第312 戦闘攻撃飛行隊（VMFA 312）の所属機。

チェリーポイント海兵航空基地
CHERRY POINT MARINE CORPS AIR STATION





ノースカロライナ州のニューバーンから20マイルほどのところにあるチェリーポイントMCASは海兵隊で最大の航空基地。基地の建設が認められたのは1941年11月ちょうど真珠湾攻撃の17日前であったという。当初は海兵隊の最初のパイロットの名前をとって、カニンガム飛行場とよばれたが、のちチェリーポイントと改められている。基地の整備は1943年ころまでつづけられ、この間、海兵第1航空師団、海兵第9航空団などの各部隊が編成された。

終戦とともに、海兵第9航空師団は解隊、かわって1946年4月、太平洋戦で大きな働きをした海兵第2航空師団が司令部をおいて今日にいたっている。基地の敷地は次第に拡張されて、現在17平方マイル。

基地の主力部隊である海兵第2航空師団（2nd MAW）は、編成は1941年7月、下の飛行中隊はサンディエゴの海軍基地からハワイのエワ飛行場、ウエーキ、ミッドウェイに派遣されて緒戦で激しい戦闘をしていたものは、遠征中の海兵戦航空師団として承知のとおりマリアナ方面の沖縄を転戦、戦後一時日本に駐留して本国に帰ったのは1948年3月、以来ずっとチェリーポイントを本拠としている。

ここは第2航空師団のもとにある第20戦闘機乗員訓練大隊（MCCRTG 20）、A攻撃機部隊の第14航空大隊（MAG-14）、それにファントムの海兵戦闘攻撃飛行隊第312戦闘攻撃飛行隊VMFA 312などである。





ページ上 中 下 第312海兵戦闘攻撃飛行隊のF-4Bファントム 同飛行隊は の基地 訓練を行なって の実戦部隊
右）MCCRTG 20の ある海兵戦闘攻撃訓練飛行隊 VMFAT 201 のF-4J 機体は 標的曳航の装備を DQF-4Jで 飛行隊はF-4Bも装備している MCCRTG 20 飛行隊のほか KDのテイルレターをつけ ムの第203攻撃訓練飛行隊 VMAT 203 A-6 TC-4C装備の第202全天候攻撃訓練飛行隊（VMAW）-202 の三つの飛行隊から成っている



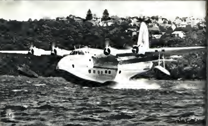




フォト ニュース

〔上〕西ドイツのドルニエとフランスのダッソー・ブレゲーの共同で開発しているTA 101アルファジェット練習/攻撃機。さしあたって練習機3機と地上攻撃型1機計4機の原型の製作が決っており、1号機は本年末に初飛行、生産は1978年までつづけられ、西ドイツとフランス空軍への引渡しは1976年から予定されている。写真は練習機のモックアップ。

〔下〕オーストラリア本土とノーフォーク島、ロードハウ島間にはカンタスとアンセット航空会社が定期便を飛ばせているが、アンセットでは写真のような旧式のサンドリンガム飛行艇も就航させて好評をはくしている。カンタスの使用機はDC 4。離島の運輸には旧式のプロペラ機もまだ広く使われている。





〔上〕アラビアのオーマン空軍の購入したショート スカイバン輸送機。カムフラージュ塗装をし、8機が71年11月ごろに引き渡された。[illegible]



〔上〕チェコのターボプロップ双発輸送機LET L-410ターボレット。チェコで造られた初めてのターボプロップ双発機で、乗客12〜15人乗り。昨年から国営航空のスロバクエアに配備されて、国内線に就航している（TASS）

〔下〕オーストラリアのGAF N双発輸送機は、オーストラリアの軍用機ばかりでなく、低価格の民間双発機としても注目されている。写真は原型の試作機で、昨年の[illegible]に初飛行した。




СССР
СССР-19672
19672







左ページ5枚は 去る4月末 モスクワのシェレメチェフ空港で開かれた航空ショーに展示された各機 スターのTu-144のほか 練習機のYak 18T チェコ製の旅客ターボプロップL 410 (57ページ参照) Yak 40旅客機やMi-1? Ka 26ヘリなども展示された [左上] 飛行中のYak 40 本機はすでにアエロフロートの路線を飛んでいるが、最近イタリアへ2機輸出する契約を結び、南アメリカ方面にも デモ飛行をまわって積極的な売り込みをつづけており コロンビアのパン・キリアにある航空工場で 燃料搭載をふやした長距離型の改造を行なうことになった。[左中] Yak 18T練習機、4座席の軽飛行機だが 写真はアエロフロートで乗員訓練に使っている1機。(左下) ショーの主役 Tu 144超音速旅客機 Tu 144は前期量産型の1号機もまもなく飛行することになっており 生産型の完成も近い。

(上) コンコルド001がテイル・シュートを開いて飛んだ。このほど機雷の制余テストをしたときのスナップで、このあと大迎角での失速状態などの重要な飛行が行なわれる。テイル・シュートは 大迎角飛行などで機が危険な状態になったときに用いられる。(下) ダッソー ブレゲーの新型ビジネス・ジェット ミステール20の完成想像図。



(下)フランスのトゥールーズ・サン・マルタン工場で完成に近づいているコンコルド機。すでに尾翼や機首の取付けが終っている。これは量産2号機で、テスト中の原型機にくらべて エンジンも量産型のものとなって騒音も削減される。9月に初飛行の予定。





〔上〕4月18日からフランクフルト—ニューヨーク間の大西洋路線に就航したルフトハンザのジャンボ貨物専用機ボーイング747F 積載量は約100トン。同機の前に"ルフトハンザ カーゴ"の"単文字"を描いて並んでいる72台のフォルクスワーゲンをひとのみにして空輸できる

〔下〕ジャガー1に搭載するため、こん包されてフランスへ輸出されるロールスロイス・ツルボメカ アドアー エンジン。同エンジンはジャガー中距離攻撃機T 2のほか 英空軍のHS 1182練習機にも採用が決っており ただいま生産にも拍車がかけられている





〔上〕NASA（米航空宇宙局）が1980年代に打上げるスペース シャトルの完成図。同計画の主契約会社をめざすロッキードで研究しているもので 機体内の貨物室は 全長18.3m 全幅4.6m。

〔右〕このほど東京 事務所を開設したフィンランド航空の国際線DC-8とスーパーカラベル。将来は日本への乗り入れも計画している



スナップ だより





（上）新しく機種がかわった海兵隊第533全天候攻撃飛行隊（VMA（AW）533）のA6A 岩国基地にて（川越市 関根康雄）。
（左）沖縄に配備されている海兵隊のベルAH1J。現地にて撮影（M生）。



（下）このほど横田基地に飛来したテイルレター FO のF4D。ベトナム方面へ派遣されている第8戦術戦闘航空団（8th TFW）第433戦術戦闘飛行隊（433th TFS）所属機で、同飛行隊機の飛来するのはめずらしい（東京都 北原創来）。



(上) ……ト クルツナッシュ飛行基地に 駐留するアメリカ陸軍の OH-58Aカイオワ (P Flinxner 撮影)。
(右上) この……横田基地に 飛来した C-9Aナイチンゲール患者輸送機 (昭島市)
(右下) 引退がましい 海上自衛隊の R4D-8 ……205飛行隊所属で 現在下総の第1航空隊に配属されている 9022号機
(下) サターン航空のロッキード L-100-20, 4月8日 羽田にて



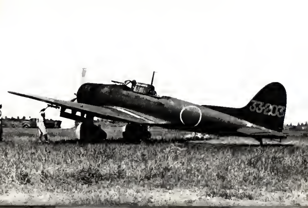




AICHI D3A1 CARRIED DIVE-BOMBERS IN THE SOUTH PACIFIC THEATER.



南方基地の　99式艦上爆撃機11型


33-203



愛知99式艦上爆撃機のデビューは　昭和15年頃の中国の戦場　真珠湾攻撃からインド洋海戦と太平洋戦の緒戦でめざましい働きをし　その後も大戦中期まで爆撃の主力　後継機彗星の戦力化が遅れ　大きなスパッツを付けた固定脚の本機は　ついに終戦まで第一線で駆使されることになる　高性能な敵戦闘機の出現　消耗による搭乗員の技量の低下などもあって　末期には苦戦を強いられ、被害も大きかったが、緒戦のころは80パーセント近い驚異的な命中率を誇った世界一の急降下爆撃機であった。

今回掲載した写真は　昭和17年3月にスラバヤ方面へ派遣された第33航空隊所属の99艦爆11型（D3A1）である。108ページは滑走飛行中　前ページとこのページはスラバヤの基地にて。両主翼下には　急降下のときの制動用に固定式抵抗板を付けているが　前ページ写真ではそれが下げられているのに注意。







暫しく第33航空隊の99艦爆11型,(左)爆下に入るところ。爆弾鎖は上げたまま。99艦爆は60度から90度までの急降下爆撃ができた。真一文字に突っ込んで 敵艦の弱点である甲板をねらうので効果も大きかった。(上・下)エンジンを始動して発進。(右)スラバヤ上空を飛行中

99艦爆は海軍ではじめての全金属製 低翼単葉の艦爆 主尾翼は空力的に優れた楕円テーパー翼を採用しているがその特徴あるずんぐりした機状が103ページの写真でよくわかる。そのほか爆状を減らすために全翼的に沈頭鋲を用い、胴体や尾翼 主脚に充分な強度をもたせるなど こまかいところまで気をくばった愛知時計苦心の作であった。

Though it was the fixed undercarriage and attractive D3A was the most important Japanese Navy A F dive bomber of the Pacific War. Piloted by highly skilled veterans who had gained vast experience in the China theatre the D3As dealt the opening blows at Pearl Harbour and the Indian Ocean operations. In those days it was said that the D3As showed the highest rate of the direct hit of 80 to 90 per cent success on their anti-shipping sortie.



The Aichi type 99 Mk 11 (D3A1) carrier dive-bombers of No.33 KOKUTAI (Air Corps) stationed at Surabaya area in the Java Island during Spring of 1942.
The dive bomber, known Allies by the name of Val, was the first Japanese carrier dive bomber of all metal construction low wing monoplane.





同じく第33航空隊の99艦爆11型。後方より見る。11型は金星44型（1,070HP）エンジン装備。のちに金星54型（1,300HP）に代えて細部を改造した22型も造られている。11型は、この写真のようにプロペラ スピナのキャップがついていなかった。写真の機体は上側面暗緑色、下面 明灰白色の海軍機の標準塗装。日の丸は白ふちつき、尾翼の数字は白ふちつきの赤と思われる





撮影© 菊池俊吉

未発表 陸軍機写真集

明野飛行学校の2式単戦"鍾馗"

Nakajima Ki 44 SHŌKI of Akeno Army Flying School

(Front page) The HINOMARU is run up at the morning flag raising. SHOKIs in the back ground are Ki.44 I later versions and Ki.44 II-KOs.



SHOKIs prepare for take-off on the ordinary practice. Among five SHOKIs in the foreground, [illegible] are Ki.44 I later versions [illegible]

[illegible] よるすばらしい写真で埋められた頁の編成たち　今回はその貴重な「明野陸軍飛行学校の鍾馗たち」である　陸軍戦闘機操縦員の空中戦闘・射撃などの教育訓練のために創設された明野飛行学校は　のちに新鋭機の慣熟・戦闘飛行訓練を行ないながら防空の任ももつ教導飛行師団へ改編されており明野飛行場には陸軍のあらゆる戦闘機が配備されて、そのなかでもひときわ目立ったのが　このずんぐりとたくましい　どう猛な面構えの2式単座戦闘機「鍾馗」であった

〔109ページ〕飛行開始　日の丸に敬礼する操縦員たち　愛機にまたがり、いかにも複雑でたのもしいつらがまえばかりである　この飛行服姿は　当時の青少年のアイドルであった。後方の機体は右から2　3機目が鍾馗の1型　ほかはカウリング下面に蜂巣状のオイル　クーラーがついた2型甲〔前ページ〕出発準備中　後方に滑走中の1機　さらにそのうしろを4機が編隊離陸に入っている　手前の試運転中と滑走している1機は鍾馗の1型で　ほかの3機は2型甲である（右）濃緑色マダラ迷彩の2型甲の機首（下）同じく2型甲で　車輪止めをしてエンジン試運転中の精かんな姿。





Pierce looking Ki.44 - IIOc runningup on the Akeno Air Field



A flight of Ki.44 II KO taxies out for take off at Akeno Air Field. Note the fowler-flaps so called "combat" flaps are extended. The Ki.44 Model II was an improved version of Model I with the Ha 109 engine rated 1,450 h.p. The carburettor air intake in the nose of the Model 1 was [illegible] oil cooler intake was newly installed under the nose.

Ki 44 II-KO takes off from Akeno Air Field



Ki 44 I later version is manhandled to move it from the apron.





〔上〕4機で隊列を組んで滑走中の2型甲。1型のハ41エンジン（1,250HP）をハ109（1,450HP）に換装して性能を向上したのが「鍾馗」の2型で、2型甲はその初期の量産型。エンジン前面の環状冷却器を廃して滑油冷却器をカウリング下に張り出して取りつけ、風防や燃料タンクを防弾にするなどの改良もされている。プロペラも機体にまわした弾丸のような精悍な姿。たのもしい「鍾馗」の面目やくじょとしたスナップである。4機とも蝶型フラップを下げているのに注意。〔左中〕スタートする2型甲。1型では中央風防が後方の固定風防の内側にスライドして開くようになっていたが、2型からは写真のように後部風防がスライドするようになった。〔左下〕整備員の手で移動される初期の1型。上部の塗装の状態などがよくわかる。〔下〕同じく2型甲の機首。いったん後方に出て下がる蝶型フラップ、主翼下面にチューブ状に出している空薬きょう受け、胴体下の主翼みおいハネルなど、細部がよくわかる。

Details of the forward-fuselage of Ki 44-II-KO



Ki.44s of Akeno Army Flying School on a flight practice.





"鍾馗"は一撃離脱戦法を用い、スピードで勝負するという重戦思想のもとに造られた最初の戦闘機である。大直径エンジンを積んだため機首が太いものとなり、前方視界が悪い上に着速が速く、格闘能力を重視した軽戦に慣れた搭乗員には毛ぎらいされもしたのであった。これは同じく迎撃機である海軍の"雷電"の場合も同様であった。しかしこの両機は、いわゆるウデの良い搭乗員には好評であって、この両機をうまく乗りこなせるのが本当に優れたパイロットというのが、当時の戦闘機仲間の格付けでもあったという。

(上・下・右上) 飛行中の"鍾馗"。写真下と右上の機体は無塗装の2型甲。空中にあると胴体の太さが強調されて、いかにもスピード感にあふれている。そのスピードと上昇力、ダッシュ特性を生かして、本土防空戦に活躍した。





〔下〕これも警備員　押されて場所を移す後期の1型　主翼の機銃をはずしているのに注意。遠方は燃料を補給中の2型甲　手前の1機はカウリング後方の外板をはずして整備されている



Ki 44-I late version and lines of Ki 44-II KOs. Note the two Ho-103 machine guns in the wings of the fore-ground Ki-44-I are removed



スピットファイアの戦闘記録 (その11)





（前ページ上）フランス海岸のドイツ軍拠点上空の爆撃攻撃を終えて帰投するスピットF MK Ⅸ（Ⅸ）C。見事なV型編隊を組んで堂どうの帰還である。（同下）南アフリカのあるグループから献金で送られたF MK Ⅸcの1機。機首に「BRAZIL」の文字。胴体下にはスリッパー タンクを付けているのに注意。

（上）ローマ南方のアンツィオ近くの海上をパトロール中のF MK Ⅸc。（下2枚）全面雪におおわれた英本土南岸の飛行場から発進するF Mk Ⅸc。GEのコード・レターをつけたベルギー人部隊第349中隊の所属機。胴体下には長距離飛行用の増槽をつけている。同中隊は1943年6月の編成。トマホーク、テンペストでも戦っている。







（上2枚）ローマ方面上空の攻撃を終えて基地に帰るF Mk IXc RZのコード・レターを描いた第241中隊の所属機。1918年に海軍航空隊として編成されたのが同中隊の前身。1940年8月の再編成後 スピットのほかライサンダー トマホーク ムスタング ハリケーンなどを装備して偵察・戦闘に活躍している （下）F Mk IXeで これはノルウェー空軍の所属機 IXeはブリティッシュ・イスパノ20mm機関砲4門または同砲2門と12.7mm機銃2梃の装備ができるE翼にしたもので 後期の生産のものに採用されている





KLMは1953年11月から世界の航空会社のトップを切ってロッキードL-1049スーパー・コンステレーションを就航させた。1953年11月にL-1049C、1954年6月にL-1049E、1955年にL-1049G、1958年11月にL-1049Hと四つのバリエーションをつぎつぎに導入している。

これに先だって1946年10月にはL-049、翌1947年5月にL-749Aと、ベビイ・コンステレーションも装備しているが、いずれも欧州の航空会社では最初であった。

上の写真のL-1049G（PH-LKE）はロッキードが製造した最後のコンステレーションで、通算285機目の機体。同機はアフリカのカーノ空港で最後の飛行をしているが、その離陸のときの飛行記録は10[illegible]回であったといわれる（上の写真は[illegible]氏提供）

エアラインの翼

KLM　オランダ航空 ⑦



NASAの航空機





〔連載第2回〕

先月号にひきつづい
NASA（アメリカ航
宙局）でテストされた
機。

（上）C-8Aバッファ
輸送機　此機の所属の
NASAのテストを受け

（次）ライアン社が
したV/STOL機のひと
VZ-3。プロペラの後
特殊フラップで曲げて
OL性の研究をした
で後方に見えるのは
次大戦前に飛行船が格
きるように造られた
格納庫で　サンフラン
コ近郊にある。

（下）NASA701と
てテストを受けたリア
ット　ビジネス・ジェ







〔上〕X 14A V/STOL研究機 ジェットの排気を下へ吹き出す研究に使われたもので 機体はベル・エアロシステムズ社が製作し 空軍と協同で実験が行なわれた。
〔右〕コンベア990研究機 ウォーラー飛行といって 日蝕特別観測のためキャビン天井の左側に13個の観測窓を付けた機体。1965年7月の撮影。



〔左〕XV 3コンバータープレーン 両端のローターで垂直昇降も水平飛行もできるようにしたV/STOL実験機。これはエイムス研究所の巨大風洞で風洞実験を受けているところ。
〔下〕周回するM2・F2リフティングボディとチェスプレーンのF 104G。F 104GもNASAの専用機で 812という番号をつけている。





（左）XV
機 V/STO
研究機 リフ
ファンを装
と機首 埋込
ｒもので 並
のファンは大
ーでおおわれ
いる XV
はGEとライ
ンが協同で製
したもので
軍もっぱ
して2機の
の発注を受
か 最初の
5A 12機と
事故で失なわ
XV 5m
装置や操縦
わりなどを
した改造型
在エイムス研
所で飛行テス
中である



（右）M2 F1リフティングボディ研究機 写真は10 000フィートの高度で曳航飛行テスト中のもの エドワーズ空軍基地 て

（下）C 130B輸送機を改造してBLC（境界層制御）装置の実用化を研究しｆ NC 130B 外翼のポト BLC吹出し用のジェット エンジンを付けてるの 上部 胴体 まく「ワンダ」 レイヤー コントロールの文字を描 て る





〔上〕XB-70A試作機　XB-70Aは爆撃機の原型として造られたが、不採用となったのち、もっぱらNASAの手で超音速旅客機の空力データを求めるために飛ばされた。前翼形式の巨大なデルタ翼機で、機体はチタン合金をふんだんに使っている



〔上〕X-15A-2　X-15の2号機。7mのタンク2個を取付けて、滞空時間とスピードを上げた機体。全面が白っぽく塗られている　〔下〕F-8戦闘機改造のスーパークリティカル翼実験機　F-8戦闘機に高亜音速で効率のよいスーパークリティカル翼を付けたもの。胴体と翼の継ぎ目には大きな整形がついている。加州エドワーズ基地でテスト中で、これは1971年春の撮影

